

平成27年度過疎地域等自立活性化推進交付金 過疎地域等自立活性化推進事業概要一覧



総務省地域力創造グループ
過疎対策室

過疎地域等自立活性化推進交付金の活用事例(平成27年度)

○産業の振興(スモールビジネス振興)

群馬県 神流町 : 恐竜模型製作事業 … 1

石川県 羽咋市 : 世界農業遺産を守れ!! 害獣を産業に大転換「イノシシ特産化プロジェクト」事業 … 2

○生活の安心・安全確保対策

青森県 鱒ヶ沢町 : 高齢者の生活を守る買い物支援バス実証運行事業 … 3

○集落の維持・活性化対策

北海道 白老町 : 「民族共生の象徴となる空間」とともに歩む白老町活性化・周辺環境整備事業 … 4

福井県 越前町 : 越前水仙を活かしたまちづくり事業 … 5

鹿児島県 西之表市 : 地域づくりはみんなが主役、興そう古田を豊かな里に
～地元の資源・知恵を活用した地域自立事業～ … 6

鹿児島県 三島村 : シマとシマのコミュニケーション強化事業 … 7

○地域文化伝承対策

香川県 小豆島町 : 東瀬戸内文化圏における「小豆島 石の魅力創造プロジェクト」 … 8

恐竜模型製作事業

概要

神流町は関東唯一の恐竜化石産地として有名であり、恐竜センターを中心に「恐竜」によるまちおこしに取り組んできた。町内には一部を除いて産業が乏しいため、町では雇用の創出に力を注いでいるところ、「恐竜」を有効な地域資源と考え、国内では類を見ない高品質かつ精巧な手作りの恐竜模型を製作し販売する事業を平成25年に開始した。小さな町から全国規模で魅力のある雇用の場として「恐竜産業」を確立するという大きな目標に挑戦している。

群馬県神流町



手作業による恐竜模型作成の様子

事業の内容

事業の内容

- ①恐竜模型の増産及びラインナップの拡充
- ②国内における販売先の拡充
- ③市場調査
- ④恐竜王国秋祭りの活性化

総事業費

15.5百万円

ポイント

恐竜模型は市場に多く存在するが、その多くは中国産であり、品質も必ずしも高くはない上、適切な学術監修を受けたものは少ないのが実情である。本事業では地域資源としての「恐竜」を活用し、高品質な材料と確実な学術監修の下で製作を行い、神流町ならではの産業を振興し、全国的にも魅力のある雇用の場を確立することにより、町にI・Uターン者を呼び込み町への移住・定住を促進することを目指している。



高品質かつ学術監修に基づく恐竜模型

事業の成果

- ラインナップの充実(16種類→32種類に増加)
- 生産性の向上(恐竜模型製作数昨年比26%増産)
- 新規販売先の開拓(新規販路11件開拓)
- 売上の向上(恐竜模型売上昨年比36%上昇)

今後は、新たな客層の獲得や更なる生産性の向上を図るとともに、国内だけではなく、海外に向けても製品販売を展開し、「恐竜産業」の定着を図っていく。



恐竜センターでの恐竜模型陳列の様子

世界農業遺産を守れ！！害獣を産業に大転換「イノシシ特産化プロジェクト」事業

概要

生息域が拡大し、被害の広がる能登半島のイノシシについて、有害鳥獣としてではなく、衛生的な施設で、食肉としての活用を図る。食肉処理業の許可（H27.10.14）を取った施設での試験的な生産を開始した。H27年度中には107頭を食肉に転換できた。

事業の内容

事業の内容

- | | |
|------------------------|----------------|
| ① 獣肉の取り扱い技術の取得 | ④ アドバイザーの活用 |
| ② 獣肉処理施設の設置（H27.10.14） | ⑤ 普及イベントの開催 |
| ③ 広域的な個体確保の確立 | ⑥ HP製作・ロゴの商標登録 |

総事業費

12.1百万円

ポイント

- ① 2市3町からのイノシシ搬入の流れを構築
- ② 他の獣肉処理施設との連携により、ネットワーク・技術の共有



事業の成果

- ① 能登半島で初めての獣肉処理施設設置により、精肉の販売を開始した。
- ② 近隣1市3町との連携により、多くのイノシシを流通への流れに乗せた。
- ③ 市内外で、飲食店でのメニュー化が進み、特産化への足掛かりができた。

石川県羽咋市

【施設開業】



【販売開始】



【調理講習】



高齢者の生活を守る買い物支援バス実証運行事業

概要

- ・公共交通サービスの低下（公共交通の人口カバー率65%、限られたバスの運行本数）
- ・商店の廃業（中心部への外出の必要性）
- ・高齢者の社会的孤立（一人暮らし高齢者）

- ✓外出が困難な高齢者の増加、社会的孤立が懸念される
- ✓無理して車を運転し続ける高齢者も多く、安全面が懸念される

外出が困難な高齢者等の社会的孤立を防ぎ、住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らし続けられるように、外出支援、商品の宅配、安否確認等を一体型で行う買い物支援バスの実証運行を実施し、高齢者等の日常生活の支援対策を構築する

事業の内容

- ① **高齢者等支援会議の設置**：福祉、商工関係、住民が一体となり、生活用品の購入、宅配、みまもり(安否確認)等について、一体的な対策を検討、構築
- ② **住民実態・意向調査**：高齢者の移動ニーズ、移動手段等の把握のための、アンケート調査を実施し、その分析結果を反映させた利便性の高い運行計画の検討
- ③ **運行システムの構築**：利用者の登録、申込み受付、運行計画、商品宅配、安否確認等の多様なサービスを統合した運行システムを構築
- ④ **実証運行(H27.9~H28.3)**：5地域に運行区域を設定し、地域あたり週1回ずつ、平日午前中の買い物支援のための送迎バスを運行。午後は、商品の宅配、見守りサービス(安否確認)を実施
- ⑤ **運行車両の購入**：10人乗りのワゴン車を1台購入

総事業費

10.1百万円

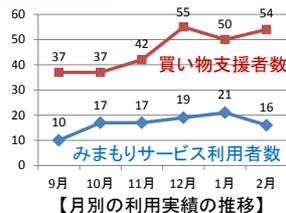
ポイント

- 住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らし続けられるように、高齢者等の日常生活の支援対策及び見守りサービス(安否確認)等を行う事により、高齢者が生きがいをもち、安心・自立した生活をおくることができる
- 日中の高齢者限定のドアツードアの外出支援(買い物支援)を実施。運行日や地区を限定した運行の工夫
- 外出支援(買い物支援)、商品宅配、安否確認をセットで行うことで効率的な持続できるサービスを実施

事業の成果

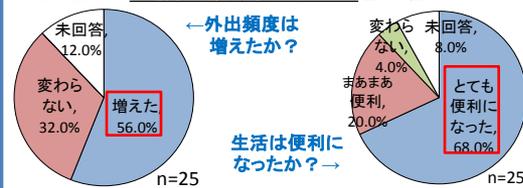
<利用実績>

- ・買い物支援の9~3月までの稼働日数129日
- ・延べ利用者数283人（登録者30人）
- ・利用者数は増加傾向
- ・見守りサービスは延べ100人回の見守りを実施(対象者50人)



<買い物支援バスの利用の声>

- ・利用者の半数以上が外出機会が増えた
- ・9割近くが生活が便利になったと回答



<期待される効果>

- ・外出促進による地域内コミュニケーション活性化
- ・引きこもりによる身体機能低下の防止、及び孤立の防止
- ・安否確認による孤立高齢者世帯の事故等の防止

青森県鱒ヶ沢町

○人口10,899人
 高齢者4,065人
 高齢化率37%
 一人暮らし高齢者1,639人
 (H27.3末住基人口)



「民族共生の象徴となる空間」とともに歩む白老町活性化・周辺環境整備事業

概要

2020年の「民族共生の象徴となる空間」開設を見据え、地域にあるさまざまな資源（自然、食、文化、ひと）を活用し、来訪者を満足させ、何度も再訪したくなる魅力的なまちづくりを進め、併せてアイヌ文化に対する理解を促進するために、平成27年4月に策定した『「民族共生の象徴となる空間」整備による白老町活性化推進基本構想』の理念に基づき、まちの魅力向上・活性化推進を図るための事業を展開する。

事業の内容

事業の内容

- ◆ 白老町活性化推進プランの策定
- ◆ 「象徴空間」コンセプトイメージ及びPR媒体の作製
- ◆ 町民、町内事業者を対象にした学習会の開催

総事業費

11.3百万円

ポイント

プランでは、官民協働により、町内外への迅速な情報発信に係る「情報推進分野」、市街地活性化による経済振興に係る「活性化推進分野」、まちづくりのための都市基盤整備に係る「基盤整備推進分野」、アイヌの歴史と多文化共生社会の理解に向けた教育実現のための「教育学習推進分野」の4分野における具体的な行動指針が示された。

事業の成果

- ◆ 官民連携のもと、本町の活性化推進を図るための行動指針となるプランが策定された。
- ◆ 学習会の開催により、今後の本町が目指すまちづくりへの理解が進んだ。
【学習会終了時実施のアンケート調査結果】
今後のまちづくりに対して理解した住民の割合 70%（目標値 60%）

北海道白老町



多文化共生のまち、しらおい

◇ 北海道 白老町 ◇

作製された
コンセプトイメージ



学習会開催の様様

越前水仙を活かしたまちづくり事業

概要

越前岬水仙ランドがある上岬地区は、「越前水仙」「絶景」「夕日」の観光資源があり、町を代表する観光地となっている。しかし、少子・高齢化に伴い、水仙農家の担い手不足や地域活力の低下が課題となっている。今回、地域住民が主体となり、イルミネーションイベントの準備やオープニングセレモニーを開催し、交流人口の増加を図ることで、地域活性化につなげる。通年型の観光地を目指すとともに、観光客の誘致促進を図ることを目的とする。

事業の内容

事業の内容

- 越前岬水仙ランド内の水仙畑に9,100個のイルミネーション（ソーラー型LED）の設置
 - ※ 準備を含めて地域住民とボランティアが一致協力して設置
- オープニングセレモニーの開催



総事業費

11.0百万円

ポイント

地元住民が準備段階から参加することで、団結力が生まれ、さらにイベントを継続することで活気と潤いのあるまちを築いていく。
越前水仙の咲く冬期間以外の来場者の増加を見込める。

事業の成果

「水仙岬のかがやき」のイベントに向けた準備や設置作業、オープニングイベントを実施して地域の団結力や魅力を再認識した住民が多く、将来に向け地域活性化が期待できる。
また、イベントのマスコミ取材や、ポスター・チラシでPRを行うことで、多くの来場者が訪れている。
今後も、地域の観光資源である「越前水仙」「絶景」「夕日」を中心にPRを行い、地域住民が誇りと潤いをもち、観光客にも満足され、活気と賑わいがあふれるまちづくりを行っていく。

福井県越前町



組立・設置作業



オープニングセレモニー

概要

西之表市の東南の山間部に位置する古田校区中之町は、65歳以上が35%を占め、高齢化が進んでいる。自治会奉仕活動は、69歳以下の市民だけで行っており、隠居した方や一人暮らしの方との交流が年々減ってきている現状である。また、先人達のこれまでのノウハウや知恵が継承できずに消滅するのではと危惧している。そのため、伝承文化の継承を図りながら、先人の知恵を引き継ぎ、地元にある資源を有効活用し住民同志の絆を深め、自立を目指す。

鹿児島県西之表市



事業の内容

事業の内容

- ① 伝統文化の継承事業として、炭窯炭焼きの復活及びしめ縄制作の事業を展開する。
- ② 集落の中を流れる河川沿いに植栽されている河津桜周辺を整備し遊歩道を設置。桜祭りの開催。
- ③ 農業協同組合支所跡地を活用し加工施設や地元産直売所を開設する。



総事業費

10.3百万円

ポイント

- 炭窯製作の復活・炭焼き、しめ縄づくりを行い、多世代交流を行いながら伝統文化の継承が図られた。
- 地域イベント河津桜祭りの開催、直売所設置により地域住民や地域外住民との交流も生まれてきている。

事業の成果

- ◆ 桜祭りイベントに、地元住民57人、地域外住民50人以上参加
- ◆ 地元産品直売所(活喜市場)オープンには来客数153人
- ◆ しめ縄づくりには、子供から高齢者まで38名参加



直売所やしめ縄づくりを実施したことにより、地域内で多世代交流が進んだ。また、桜祭りイベント開催により、地域住民はもとより、地域外住民との交流も図られた。

シマとシマのコミュニケーション強化事業

概要

三島村は村の行政区域が3つの島に分断されており、且つ、一部地域では、防災行政無線が入らない、携帯電話が入らないエリアもある。一方で災害時、緊急時、急患発生時等には消防団をはじめ地域住民の協力が必要となるが、その際の連絡網が携帯電話・固定電話に限られ、迅速且つ網羅的な連絡手段の整備が喫緊の課題である。加えて、4つの地区が地理的に分断され、地区間のコミュニケーションが疎になりつつあり、地区間のコミュニケーションを活性化することで住みやすいシマの暮らしを実現することも求められている。

➡ 人口減少を食い止め、移住・定住を増やしつつ、交流人口を増やすためのライフラインとして、住民・観光客間、島間の双方向の地域メディアを構築し、島の生活の安心・安全を確保を図る。

鹿児島県三島村



住民への事業説明会の様子

事業の内容

事業の内容

メール配信システム、住民コミュニケーションサイトという2つのシステムを構築する。

総事業費

10.0百万円

ポイント

- メール配信システム：既存の防災関係システムなどとも連携し、災害情報を自動的に素早く伝達
緊急速報メールとも連携し、島外からの訪問者への情報伝達も可能
- 住民コミュニケーションサイト：島民にとって必須な情報である村営船の便や、イベント情報などをカレンダー形式で表示

事業の成果

メール配信システムでは、全国瞬時警報システム(Jアラート)と連携し、噴火や津波、大雨などの警報等を防災行政無線のみならずメールや音声メッセージで伝達することを可能にし、無線では音声が届かない範囲であっても通信可能なエリア内であれば情報を受信できるようになった。また、高齢者の住宅にある見守り端末とも連携し、緊急情報の発表時には他の情報に優先し緊急情報を表示。住民説明会をとおり、51名のメールアドレスを登録した。今後、役場職員を含めより多くのアドレスの登録を目指し、村の避難訓練に本システムを組み込むなどの活用を検討している。

コミュニケーションサイトでは、地区ごとのイベントを色分けして表示したり特定の地区のみを表示できるようにするなど、一目でわかりやすいようなサイトを構築した。



事業推進協議会の様子

シマとシマのコミュニケーション / 三島村ネット

カレンダー 今日 年予定 月指定

2016年03月

日	月	火	水	木	金	土
28	29	1 09:30 出港	2 14:05 入港	3 09:30 出港	4 14:05 入港	5 09:30 出港
6 14:05 入港	7 10:00 三島村 村議会	8 09:30 出港	9 14:05 入港	10 09:30 出港	11 14:05 入港	12 08:00 出港 (松崎)

コミュニケーションサイト表示

東瀬戸内文化圏における「小豆島 石の魅力創造プロジェクト」

概要

大坂城石垣石切丁場をはじめ、人類共通の多様な「石の文化」が色濃く残る瀬戸内海・小豆島
グローバル化と効率化によって歴史ある石材産業は衰退し、過疎化が進行する小豆島の元気を呼び返すため、地域内外の力を結集し、「石の文化」を守り、磨き、魅力を高めて、次の世代につなげていくプロジェクトを展開

事業の内容

事業の内容

- ❖日本の三都の城郭（江戸・大坂・金沢）と石切丁場の魅力を日本と世界に発信する「瀬戸内海・小豆島 石のシンポジウム2015」を開催
- ❖近世の海運技術と「海の民」の知を探索する海中遺構調査を展開し、日本では立ち遅れている「水中考古学」の実践と確立を推進
- ❖東瀬戸内文化圏の石の文化の「世界遺産化」を目指し、有識者会議を開催するなど多様な学術領域から魅力を検証
- ❖住民共同の考古学（パブリックアーケオロジー）を実践し、地域の人びとや学生が主体となって石切丁場の調査を展開

総事業費

11.3百万円

ポイント

シンポジウムや新しい学術調査、パブリックアーケオロジーの実践などを通じて、地域の人びとが自分たちの文化の素晴らしさを知り、守り、新しい価値を加えていく営みを通して、地域の連帯と絆を高め、自信と誇りを取り戻すことで、地方の創生につなげていく事業を展開
自分たちの知恵と情熱で地域を元気にする「自普請」の心で「海と島」の復権を目指していく

事業の成果

- NHKBSプレミアム番組「風雲！大歴史実験 大坂城の巨大石垣を築けー」の制作やシンポジウム、パブリックアーケオロジーなどを産学官民連携で展開することにより、地域の連帯と絆が高まり、「石の文化」に対する自信と誇りを醸成
【石の魅力創造プロジェクトへの関係者（スタッフ）数 H26：自治会役員中心20名 → H27：自治会、石材業、漁師、自営業など40名】
【BS朝日 関口宏の「美しき日本の田舎」～十人十色の移住物語～において、子どもたちが石の文化を学ぶ特別番組が実現】
- 瀬戸内海・小豆島の石の文化をアカデミックに調査研究する大学が大幅に増加し、多様な大学連携を実現
【H26：同志社大学、香川大学 → H27：同志社大学、香川大学、神戸大学、高知大学、徳島文理大学】
- 全国に拡がりを見せるシンポジウム
【シンポジウムの県外からの参加者数 H26:47名 → H27：73名 NPO法人大阪城甲冑隊、堺火縄銃保存会、金沢の石工職人との連携も実現】
【他地域との連携を推進 H26：大阪市、笠岡市 → H27：大阪市、笠岡市、西宮市、丸亀市、小田原市、金沢市】
- 海の文化遺産、水の子岩（礁）の地形等を初めて把握
【マルチビーム音響測深機の導入により、水の子岩（礁）の地形把握に初めて成功。水中ロボットによる動画撮影も展開】
- ☆世界考古学会議第8回京都大会（WAC-8京都）における小豆島プレシンポジウム・プレツアーを2016年の夏に開催
【東アジアでは初の開催となる世界考古学会議において、そのオープニングを飾るプレイベントを小豆島で開催し、世界に向けて石の文化の魅力を発信】

香川県小豆島町

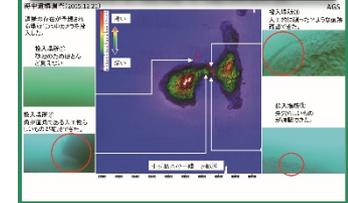
石の文化クルージング



シンポジウム



水の子岩海中遺構調査



有識者会議



大狗岩丁場石材分布調査

